

京都市市民活動総合センター 令和 7 年度 事業報告書

令和 8 年 5 月

指定管理者名:特定非営利活動法人きょうとNPOセンター
代表者名: 理事長 中村 正

令和 7 年度(2025 年度)の事業報告

市民活動総合センター(以下、「しみセン」)指定管理第 5 期 3 年目として、1～2年目に試行した事業の本格実装と評価を視点にセンター運営を行った。

運営方針(10 項目)を基本姿勢とし、6つの事業分野における年度計画を実行するとともに、しみセンの機能として求められる必須業務を遂行した。

【運営方針】

- (1) 「公設市民館」の推進
- (2) 災害ボランティアセンター及び他機関連携の推進
- (3) 公平・平等・公正を基調とした運営
- (4) 寄付文化の醸成及び寄付支援システムの構築と運用
- (5) G(ガバナンス=組織管理体制)・C(コンプライアンス=法令遵守等)・D(ディスクロージャー=情報開示と説明責任)の推進
- (6) 施設活用の向上及び市民活動パブリシティの強化
- (7) 社会関係資本の再構築と受信力の向上
- (8) 適切な法人格の選択と法人として多様な法的枠組みに沿った支援対応の充実
- (9) 官民連携及び地域団体との連携・協働の促進に向けた中間支援機能の発揮
- (10) ウィズ(アフター)コロナ禍における、共存を想定した市民活動支援環境の構築

各事業分野と 令和 7 年度 事業目的

1. 情報収集・提供事業

目的:NPO/市民活動団体に対して運営を支える情報を適切に配信するとともに、市民に対して質と量と多様性を確保した情報発信を行い、多様な市民活動のあり様と個々の活動意義を伝えます。

2. 相談事業

目的:市民活動を推進するため、多様なセクターとの連携を促し、広く個人・団体にとっての総合相談窓口を目指します。

3. 育成事業

目的:「担い手の育成」「理解者・支援者の育成」の 2 つの柱をさらに深めます。

4. 連携・交流事業

目的:多様なセクター(分野別センター含む)などの関係諸機関との連携の触媒となり、よりよい関係づくりと効果的な成果の創出に務めます。

5. 施設管理

目的:利用者の視点に立って、利便性を高め、市民活動総合センター機能の効果を高めるサービスを開発し、提供し続けます。

6. 京都市災害ボランティアセンター運営事業

目的:レジリエントシティとして、災害に強いまちづくりのための活動を促進します。

情報収集・提供	目的	NPO/市民活動団体に対して運営を支える情報を適切に配信するとともに、市民に対して質と量と多様性を確保した情報発信を行い、多様な市民活動のあり様と個々の活動意義を伝えます。
事業計画		◆NPO・市民活動団体の活動等情報の発信において、社会の動きをとらえたテーマを設定して社会課題と団体への関心を同時に喚起する。

関連する主な事業一覧

○[情報]市民活動に関する情報の収集・提供 ○市民活動に関する図書等の収集・管理

○[情報]機関紙の発行 ○[情報]市民活動団体の情報収集・提供に関する支援

機関紙「hotpot」編集方針の再構築

機関紙「hotpot」は、公共施設に加え、飲食店、各種商店、薬局等にも配架し、市民活動と接点の少ない市民にも届くアウトリーチ媒体として発行している。令和 5～6 年度は、身近なこと・モノ・事象を切り口に、市民活動の視点を織り込む編集方針としていた。令和 7 年度は、情報事業全体の目標を踏まえ、社会課題への関心喚起に加え、NPO・市民活動団体の具体的な取組や活動意義をより明確に伝える構成へと見直した。また、各号のテーマに関連する書籍を購入し、しみセン図書コーナーや「knocks! horikawa」に配架することで、機関紙と図書を連動させ、潜在的関心層へのアプローチを図った。

hotpot 82 号(令和 7 年 9 月発行/8,000 部)

動物愛護法改正に向けた動きや、ペットの適正飼育、動物福祉への関心の高まりを踏まえ、「動物とともに暮らす」をテーマとした。

- ・障害者の自立を支えるパートナー「補助犬」
紹介団体：(公財)日本盲導犬協会
- ・できることから始める、保護猫支援
紹介団体：人もねこも一緒に支援プロジェクト／保護猫一時預かりボランティア
- ・ペットと一緒に避難できる地域をつくるために
紹介団体：上京区京極学区自主防災会／NPO 法人アンビシャス
- ・動物福祉（寄稿：京都市動物園 生き物・学び・研究センター）



◆成果◆

- ・動物との関わりが、多様な市民活動と結びついていることを発信することができた。
- ・紹介団体を通じて、自治会住民や防災イベント等にも約 500 部を配布し、既存の配架先以外にも届けることができた。

hotpot 83 号(令和 8 年 3 月発行/8,000 部)

生物多様性の世界的な動きと京都での取組の広がりを踏まえ「あなたの暮らしと自然」をテーマとした。

- ・五感をひらくと身近な自然がもっと楽しくなる
紹介団体：NPO 法人自然観察指導員京都連絡会
- ・市民参加型の様々な生き物調査
紹介機関：きょうと生物多様性センター
京・生きものミュージアム
- ・身近な桜を守るために
取組紹介：しみセン クビアカツヤカミキリパトロールボランティア／京都市環境保全創造課
- ・地域で行うてんぷら油の利活用
紹介機関：京都市ごみ減量推進会議事務局
- ・消費者が社会を変えていく
紹介団体：認定 NPO 法人環境市民



◆成果◆

- ・自然観察、市民参加型調査、外来種対策、資源循環、消費行動などを通じて、市民が生物多様性や環境保全に関わる多様な入口を示すとともに、NPO、行政機関、地域の取組が連動しながら課題に向き合っていることを発信できた。

情報収集・提供	目的	NPO/市民活動団体に対して運営を支える情報を適切に配信するとともに、市民に対して質と量と多様性を確保した情報発信を行い、多様な市民活動のあり様と個々の活動意義を伝えます。
事業計画		◆インフォメーションサービス新規登録団体 30 団体をめざす。 ◆しみセンの利用案内の発信方法を工夫し、潜在的な利用層をほりおこす。 ◆図書充実と図書を活用した発信を行う。

関連する事業一覧

- [情報]市民活動に関する情報の収集・提供
- [情報]市民活動に関する図書等の収集・管理
- [情報]SNS 等を活用した情報発信
- 収集した情報のホームページへの掲載
- インフォメーションサービスを利用した団体情報の簡易データベースの運営(独自提案)

インフォメーションサービスの新規登録強化(目標:30団体)*継続

●令和 7 年度は、前年度に引き続き、講座や相談の場で職員が登録の意義や活用方法を直接案内するとともに、法人設立時の所轄庁窓口でのチラシ配布、センター外での事業実施時の周知など、多様な接点を活用してインフォメーションサービスの新規登録促進に取り組んだ。

令和 7 年度は新たに 42 団体の登録があり、令和 6 年度の未達分 12 団体を含めた継続目標を達成することができた。

◆成果◆

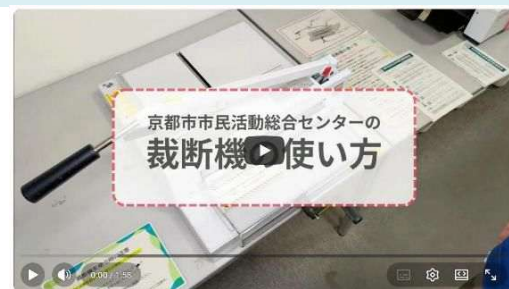
- ・法人格や活動分野も多様であり、学生の環境活動、DV 被害者・加害者支援、移民ルーツの若者支援、猫と福祉、若者の政治参画・投票率向上など、幅広い取組を行う団体の登録につながった。
- ・登録団体の広がり、多様な市民活動のあり様と個々の活動意義を発信する情報事業の基盤づくりにもつながった。

しみセンの利用案内の発信の工夫(潜在的利用層の掘り起こし)

●利用案内の発信については、最寄駅からの経路案内や館内設備紹介のショート動画等を検討した。その中でも裁断機については、文字による案内だけでは使用方法や注意事項が伝わりにくく、設備の適正利用と安全確保の観点から優先的に対応する必要があったため、使い方を説明する動画を作成し、2026 年 2 月 6 日にウェブサイトで公開した。機器本体にも QR コードを掲示し、その場で確認できる導線を整備した。

◆成果◆

公開後約 2 か月で 50 回視聴された。



しみセンの裁断機の利用方法はコチラ！

●堀川商店街内のコミュニティスペース

「knocks! horikawa」において、6 月 10 日出張講座「市民活動の落とし穴」を実施し、11 名の参加があった。講座では、市民活動や地域活動で起こりやすい課題を取り上げ、活動を継続するうえでの視点を共有した。また、講座内容は「knocks! horikawa」の SNS・note でも詳しく紹介され、しみセンを利用したことのない層や、相談機能を十分に知らなかった層に対して、活用方法を発信する機会となった。

◆成果◆

出張講座の参加者には、しみセンを利用したことはあるものの、設備利用にとどまっていた団体も多く含まれていた。講座後には「しみセンに相談に行きたい」という声があり、実際の相談来館や令和 8 年度の出張講座予約につながっている。



6 月 10 日出張講座の note 記事はコチラから↑

図書の充実と図書を活用したアウトリーチ(潜在的利用層の掘り起こし)

- 令和 6 年度に引き続き、堀川商店街内のコミュニティスペース「knocks!horikawa」に本棚を設置し、しみセン図書コーナーを展開した。
- 2 月に「knocks!horikawa みんなの図書館」と「inote+P」が主催する 1 か月間の連続企画「ケアとまちづくりを語る小さな対話と探究の時間」に企画協力し、第 2 回共生社会やおせっかいの「ここちよくて、いい塩梅」では出張相談として参加者の質問等に答えたり、ともに悩んだりした。



◆本棚設置の成果◆

「knocks! horikawa」は、運営者が市民活動やまちづくりへの関心が高いこともあり、来館者への案内を通じて、しみセンを知ってもらう機会となった。20 代の大学生から 40 代までの利用者も多く、しみセンの通常利用者とは異なる潜在的関心層にアプローチする場となった。

◆企画協力の成果◆

同企画には 18 名の参加があった。knocks! horikawa みんなの図書館と inote+P が主催する連続企画の 1 コマに企画協力することで、両団体につながる人や、「ケアとまちづくり」に関心を持つ人と接点を持つことができた。しみセンの通常事業だけでは届きにくい潜在的利用層とつながる方法として有効であることが確認でき、令和 8 年度には両団体の企画協力を得て、しみセン主催の交流サロンとして展開する予定である。

- 団体から寄贈された図書『ただいま相談受付中！ #Sotto の中の人』（寄贈者：認定 NPO 法人京都自死・自殺相談センター）をきっかけに、ウェブ記事 NPO スポットライトに『「死にたい」気持ちを受けとる夜』と題して配信した。寄贈本の紹介にとどまらず、団体の活動背景や、夜間の自死・自殺相談に取り組む意義を伝える記事として構成した。



市民活動 情報共有ポータルサイト
京都市市民活動総合センター

お互いの心がふれあうワンシーン

漫画の中で私が特に印象に残った、エピソード 6 のワンシーンを紹介します。
 ごろごろの病気になる夫の世話を長年続けてきた女性から、ある夜、電話がありました。
 絞り出されるように届いたのは、「なんで私が何かもしないといけないの...」という言葉。それは、張り詰めた糸が切れたような、悲鳴のようでした。
 相談者と対話を続けていた相談員は、その気持ちを受け取ったとき、こう応じました。
 「ずっと淡い期待をしながら生きてきたんですね...。大変でしたね。疲れましたね。」
 すると、相談者はしばらく沈黙したあと、ぽつりとつぶやきました。
 「てうですね...。私は...。疲れたんです...。だから私が欲しいのは...。苦しい言葉だったのかも...。」



◆成果◆

同記事は、2025 年 7 月 25 日の配信から 2026 年 3 月 31 日までに 373 ページビューを記録した。同期間の実績では、過去のスポットライト記事の中でも継続的に高い閲覧数を得ている「場面緘黙の子どもを持つ親たちの試行錯誤」や「向島ニュータウンの再生・向島地域の活性化に取り組む」に次ぐ閲覧数(※)であり、関心の高いテーマとして多くの人に届いた。自死・自殺相談という社会的に重要でありながら日常的には触れにくいテーマについて、団体の取組や相談活動の意義を伝えることができ、ページビュー数からも関心の高さがうかがえた。

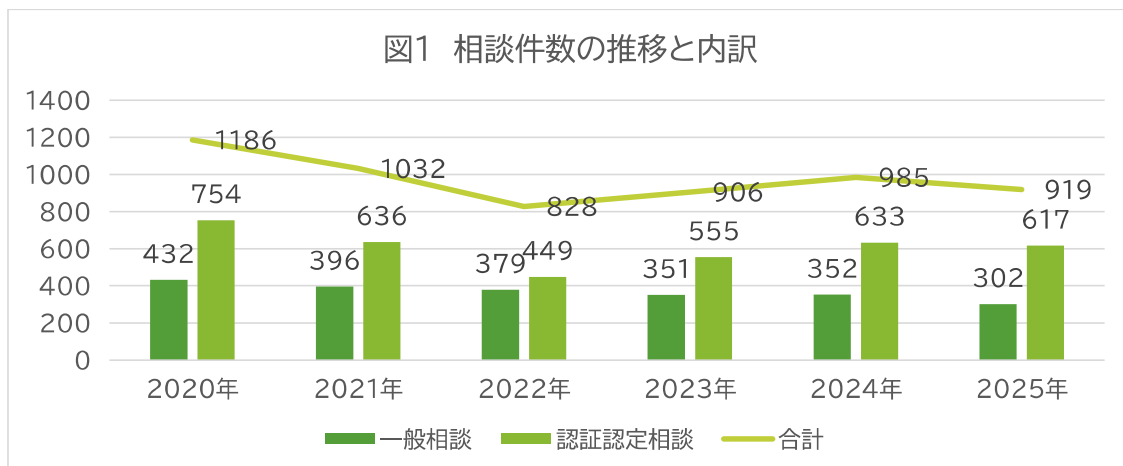
(※)統計期間 2025 年 7 月 25 日～2026 年 3 月 31 日

相談	目的	市民活動を推進するため、多様なセクターとの連携を促し、広く個人・団体にとっての総合相談窓口を目指します。
事業計画	◆事業継承に関する事例を収集し、相談対応に活かす。	

関連する事業一覧

- [相談]幅広い分野の市民活動及び社会貢献活動等に関する各種相談
- [相談]寄付金(クラウドファンディングを含む)、助成金等による資金調達に関する相談・支援
- [相談]特定非営利活動法人格取得に向けた相談 ○専門家による相談(独自提案)

相談対応実績



●相談件数について(参考:図1)

令和7年度は、合計943件(内訳:一般相談302件、認証認定相談617件、専門家相談会の利用24件)となり、認証認定相談のうち、法人設立に関する相談は引き続き増加傾向にある。解散に関する相談件数は昨年度と同程度であったが、相談内容としては、コロナ禍の影響による活動継続困難を背景としたものだけではなく、一定の役割や成果を果たしたうえで、団体の今後を検討し、解散を選択する事例も見られた。また、認定NPO法人の取得要件に関する相談や、認定取得後の組織基盤強化に関する相談も増えている。相談事業全体を通じて、団体の設立、運営、発展、解散など、それぞれの段階や状況に応じた幅広い相談対応を行った。

事業継承に関する事例を収集し、相談対応に活かす。

これまでに収集した事例を活用した相談が3件あった。

●事例1:若い世代を理事に迎えるための相談

法人設立から25年が経過し、メンバーの高齢化が進む団体から、「若い人たちに理事になってもらうにはどう進めればよいか」という相談があった。これに対し、先代が過度に口を出さず、必要な時に支えることで、世代交代が円滑に進んだ事例を紹介した。

●事例2:役員交代後のミッション共有に関する相談

理事長以外の役員を交代した団体から、新しい役員間でミッション共有が進んでいないという相談があった。これに対し、外部専門家を活用し、理念や活動目的を改めて確認・共有した事例を紹介し、専門家活用に向けて調整が進んだ。

◆補足◆

事業承継・世代交代に関する相談は、団体の歴史や人間関係、活動内容によって課題が異なる。2025年度は、収集した事例を活用し、相談者が自団体の状況を整理し、今後の進め方を考える材料を提供できた。これにより、役員交代を、権限移譲、先代の関わり方、ミッション共有、外部支援の活用を含む組織運営上の課題として整理できた。

相談	目的	市民活動を推進するため、多様なセクターとの連携を促し、広く個人・団体にとっての総合相談窓口を目指します。
事業計画		◆「NPO 法人のモデル定款～やさしい日本語版ガイドブック」を完成・公開する。 ◆実際の相談事例を発信するなど、相談の掘り起こしにつながる取組を行う。 ◆職員の相談対応力の向上を図る(継続)。

関連する事業一覧

- [相談]幅広い分野の市民活動及び社会貢献活動等に関する各種相談
- [相談]特定非営利活動法人格取得に向けた相談

NPO 法人のモデル定款の「やさしい日本語」ガイドブックの作成

令和 6 年度までに作成した「やさしい日本語」による NPO 法人モデル定款の解説案をもとに、令和 7 年度は公開に向けた整理・編集作業を行った。当初は定款本文の解説と語句説明を一体のものとして作成していたが、利用者が参照しやすいよう、モデル定款の解説本編と、別冊「言葉の説明 book」に分けて構成を見直した。

また、別冊「言葉の説明 book」については解説語句を追加し、法人設立や運営に関する用語をより確認しやすい内容となるよう整理した。これらの作業を経て、2026 年 4 月 4 日に暫定版としてウェブ公開した。

暫定版はこちらの URL よりダウンロードできます。
<https://shimin.hitomachi-kyoto.jp/info/hakkou/4052>

◆課題と対策◆

2025 年度は、モデル定款の解説本編と別冊「言葉の説明 book」を分けて整理し、暫定版として公開するところまで進めることができた。これにより、外国人住民を含む多様な市民が、NPO 法人の設立や運営に関する基本的な内容を確認できる資料として、今後の活用に向けた土台を整えた。

一方で、2025 年度は関係団体や京都市の法人認証担当職員との確認・協議を十分に進めることができず、内容の精度や実務上の使いやすさについては、引き続き検討が必要である。今後は、暫定版への意見や関係者からの確認を踏まえ、より分かりやすく、実用的なガイドとなるよう改善を進めていく。

相談の掘り起こしにつながる取組み(実際の相談事例を発信する)

●専門家相談会や講座の発信において、具体的な相談事例を SNS で発信した相談利用への導線づくりには課題が残り、発信だけでは相談の掘り起こしに限界があることも見えてきた。

●「knocks! horikawa」にて相談会を開催(2/7)し、18 人の参加のもと、コーディネーターからの投げかけに対して、事例も用いて視点の提供や課題感の整理を行った。(再掲)

◆成果◆

「knocks! horikawa」での出張相談では、企画協力団体が持つつながりを通じて、しみセンを知らない参加者や相談機能を十分に知らなかった層に対し、相談できる内容や活用方法を直接伝える機会となった。今後は、既存の市民活動や地域活動の「場」に出向く出張相談会を実施し、相談先としてのしみセンの役割を伝え、相談活用を促していく。

職員の相談対応力の向上を図る(継続)

重点的に育成する職員 2 名に実践機会を設けた。職員 A は単独での相談対応を重ね、経験を蓄積した。職員 B は、対応前後に確認・振り返りを行い、ケースによっては先輩職員が同席し、相談内容の整理や助言の方向性を学んだ。

◆重点育成職員の相談対応件数の比較表◆

	R6 年度	R7 年度	前年比
職員 A	45 件	82 件	182%
職員 B	25 件	71 件	284%

育成	目的「担い手の育成」「理解者・支援者の育成」の 2 つの柱をさらに深めます。
事業計画	◆NPO・市民活動団体間のコミュニケーション促進を図る。 ◆講座の新タイトル設置と既存講座内容の改良（継続）。

関連する事業一覧

- [情報]資金調達(寄付金、助成金、クラウドファンディング等)、会計、税務、労務その他市民活動団体の運営に関する情報の収集・提供
- [育成]研修・講座の企画・運営
- [育成]市民活動総合センターフロアを活用した団体と関心層等との出会いの演出(独自提案)

NPO・市民活動団体間のコミュニケーション促進を図る。

- 10/19 に「ゆるっとしみセン交流会」を開催
インフォメーション登録団体などしみセンの利用者を中心に呼びかけた。



- (再掲)「knocks! horikawa」での企画に出張相談として参加し、18名の参加者同士で、活動上の悩みについて共有する機会となった。

◆成果◆

「ゆるっとしみセン交流会」は 16 団体の申込があり、当日は 14 団体が参加した。交流会後も複数団体がしみセンフロアで情報を交換する姿が見られ、うち一つはイベントの共同開催に至った。

また、京エコロジーセンターが国際的なテーマを切り口とした環境学習を企画していたことから、アフリカで活動する団体が参加する本交流会への参加を呼びかけた。環境分野の拠点施設と国際協力団体という、通常は接点を持ちにくい主体が出会う機会となり、今後の連携可能性を生むきっかけとなった。

新規講座の設置と効果的な講座構成の検討

- 新講座として以下 2 タイトルを実施した

1、オンデマンド「NPO 法人の解散手続き」

※6/22～配信開始

主に解散手続きの流れを解説した動画。解散時に必要な対応は団体の状況によって異なることが多い為、相談につなげるための前段階になるよう設定した。

2、対面「町内会・自治会・地域団体のための会計講座」※2/7(土)実施

安全なお金の管理の工夫、正確な記録の仕組み、会計担当者の業務、困ったケースへの対応など、地域団体の会計実務に必要な基礎知識を扱った。

- 出張講座等で一定のニーズがある「市民活動・地域活動の落とし穴」について、より受講しやすい形で届けるため、オンデマンド化を見据えた内容の見直しを行った。令和 8 年度に「運営編」として公開予定である。

◆2025 年度各オンデマンド講座視聴回数◆

非営利法人初歩の初歩	44
NPO 法人の設立申請手続き	27
NPO 法人事業終了後の手続き	30
NPO の会計キホンのキホン	32
助成金活用セミナー	40
伝わるチラシをつくるためのキホンのキホン	41
NPO 法人の解散手続き	8

◆課題◆

講座メニューの豊富さはしみセンの持ち味である一方、新規講座以外のオンデマンド講座は、すべて視聴回数が前年度を下回った。オンライン講座が一般化する中、他の学習機会との差別化が課題である。令和 7 年度は、相談事例を多く扱う講座について、オンデマンド化を見据えた内容の見直しを行った。令和 8 年度は、相談対応の蓄積を活かした、しみセンならではの講座メニューとして展開していく。

育成	目的「担い手の育成」「理解者・支援者の育成」の2つの柱をさらに深めます。
事業計画	◆講座の新タイトル設置と既存講座内容の改良（継続）。 ◆スモールオフィスの伴走機能の向上を図り、効果的な利活用の検討を行う。

関連する事業一覧

- [情報]活動団体紹介や講座内容等の動画配信
- [育成]研修・講座の企画・運営
- [相談]寄付金（クラウドファンディングを含む）、助成金等による資金調達に関する相談・支援
- [育成]スモールオフィス入居団体の選定、各種手続き、使用料の徴収、自立に向けた支援

効果的な講座構成の検討

団体運営の年間サイクルや相談ニーズに合わせて、講座の実施時期と内容を整理した。

4月～6月は、事業年度末実務や設立相談の増加に対応し、年度末実務、定款変更、会計・労務、設立申請等に関する講座を配置した。また、12月末決算の法人向けに、1月～3月にも年度末実務に関する講座を設けた。

7月～9月は、秋以降の助成金申請や寄付金獲得に向け、資金調達や助成金活用をテーマとした講座を行った。10月～12月は、市民公開講座や交流サロンに加え、労務・税務、世代交代や終活など、組織運営や将来検討に関わる内容を扱った。オンデマンド講座には「キホンシリーズ」を集約し、団体が必要な時期に基礎的内容を随時受講できるよう整えた。

スモールオフィスの運営方法見直し（利用拡大ための工夫）

●4月1日の条例施行によりSOの利用期間が「通算3年」から「継続5年」へ変更されたことを受け、運営上の課題整理を行った。過去に満期退去した団体の再入居希望、新規入居希望団体との審査上の扱い、募集時期によって定員を超える可能性などを確認し、今後の選考や説明のあり方を検討した。

また、利用期間の延長が長期利用そのものを促すものではなく、団体の成長や次の段階への移行を支える仕組みであることが伝わるよう、入居希望団体への口頭説明時に補足を行っている。

●環境改善の取組として、フロアとスモールオフィスの境界に設置しているパーテーションについて、経年劣化により傾きが生じていたため、安全面の観点から京都市と更新に向けた協議を行い、利用環境改善につなげた。

●入居団体の利便性向上に向け、ミーティングルーム利用に関する運用を一部見直した。従来は一般利用団体と同じ利用条件であったが、一般利用団体の利便性を損なわない範囲で、入居団体内部の打合せに限り、事前予約による利用を可能とした。

◆成果◆

・期首の入居団体は12ブース中5団体であったが、期末には10団体となった。内訳は、継続利用団体5団体、新規利用団体3団体、再入居団体2団体であり、SOの利用回復が進んだ。

・面談や交流会を通じて、スモールオフィス会議委員と入居団体との関係性が深まり、入居団体の活動展開にもつながった。子ども・若者の居場所づくりや体験活動を行う委員の活動現場で、子どもの人権啓発に取り組む入居団体と子ども向け企画を定期的に実施する連携事業も生まれている。



写真：10月の入居団体交流会の様子

育成	目的	「担い手の育成」「理解者・支援者の育成」の2つの柱をさらに深めます。
事業計画		◆市民活動のすそ野拡大のための市民公開講座を実施する。

関連する事業一覧

○[情報]市民活動に関する図書等の収集・管理 ○[情報]SNS等を活用した情報発信
 ○[育成]研修・講座の企画・運営 ○[相談]寄付金(クラウドファンディングを含む)、助成金等による資金調達に関する相談・支援 ○[交流・連携]いきいき市民活動センターとの連携

市民活動支援チャリティ公開講座(以下、「公開講座」)(全2回)

●「こころ良い暮らしのデザイン～認知症を手がかりにだれもが自分らしく生きる社会を考えよう～」

【開催日】11/23(日)

【講師】堀田聡子

認知症のある方 100

人以上との対話を通じ

て見えてきた知恵や、考え方のヒントを共有し、誰もが自分らしく暮らせる社会に向けて、どのようにアップデートしていけるのかを共に考える機会とした。



◆成果と考察◆

【参加者数／申込人数】47名／51名

【寄付額】6,500円

認知症を福祉や医療の課題としてのみ捉えるのではなく、誰もが自分らしく暮らすための地域や社会のあり方を考えるテーマとして扱うことができた。一方で、開催日が連休中日となったことや、同時期に類似テーマの学習機会があったことから、集客面では課題が残った。

寄付額も6,500円にとどまり、公開講座から市縁堂への関心や寄付行動につなげる導線づくりにも課題が見られた。

●クリスマスチャリティーコンサート

【開催日】12/7(日)

【場所】京都市北文化会館

※令和7年度は、ひと・まち交流館 京都の大会議室が工事により使用できなかったため、会場を変更して実施した。

【演奏】京都ブラスバンド

市縁堂の周知を目的に、挨拶や進行の中でその趣旨を紹介し、ブラスバンドのメンバーが寄付箱を手に呼びかけを行った。



◆成果と課題◆

【参加者数】280名(市縁堂関係者含まず)

※申込人数 404名(キャンセル待ち含む)

【寄付額】160,000円(一人あたり544円)

会場変更により定員は従来より増えたが、早期に申込が定員を超えた。当日は280名が参加し、市縁堂の周知機会として多くの市民に届けることができた。寄付額は目標額20万円には届かなかったものの、過去最高額となった。

一方で、無料イベントでありながら文化会館の座席を確実に確保する必要があり、申込受付数の設定には難しさがあった。キャンセル待ちが出ていることや、キャンセルが分かった時点で連絡いただきたい旨をメール等で丁寧に伝えたことで、キャンセル率は昨年度の32%から30%に低下し、無断キャンセルの抑制にもつながった。

連携・交流	目的	多様なセクター(分野別センター含む)などの関係諸機関との連携の触媒となり、よりよい関係づくりと効果的な成果の創出に務めます。
事業計画		◆いきセン・分野別センターとの連携事業に取り組む。 いきせん:「みんなの文化祭」の改良と実施／分野別センター:ボランティア・プログラムの実施

関連する事業一覧

- [交流・連携]いきいき市民活動センターとの連携 ○[交流・連携]さまざまな分野の機関における連携
 ○[交流・連携]様々な分野の機関等との連携による交流型イベントの企画・運営(独自提案)
 ○[交流・連携]ボランティア・コーディネートの充実 ○[育成]研修・講座の企画・運営

いきいき市民活動センターとの連携「みんなの文化祭」

【実施日】3/15(日)

【実施場所】ひと・まち交流館京都 大会議室／
第1・2会議室／展示コーナー

●実施目的

令和6年度の実施を踏まえ、各いきいき市民活動センターにつながる団体の発表・展示の機会を継続して設けることを目的に実施した。各センターで活動する団体が、日頃の取組を広く市民に発信し、団体同士が互いの活動を知る機会とするとともに、各いきセンとしみセンが協力して事業を行うことで、センター間の連携や今後の協働事業のあり方を検討する機会とした。



●実施の工夫

令和7年度は、前年度の実施を踏まえ、早い段階から各いきセンに協力を呼びかけ、9いきセンの協力のもと、ステージ発表16団体、展示24団体が出場し、関係者含め150人を超える参加があった。実行委員会を事前に3回開催し、企画内容や当日運営について各いきセンと協議を重ねた。

前年度は短期間での準備となり個別連絡が中心であったが、今年度は実行委員会での情報共有や意見交換の機会を増やし、受付や会場対応等の役割分担を含め、当日の運営方法をより具体的に調整することができた。



【みんなの文化祭出演・出展団体のアンケート】
会場の広さや明るさ、控室・展示スペースの使いやすさ、音響設備、スタッフの案内や対応について好意的な意見が多く寄せられた。特に、日頃の活動を広い会場で発表・展示できたことや、多くの来場者に活動を見てもらえたことへの満足度が高く、団体の発表機会として一定の成果があった。

◆課題◆

今後も継続実施する方向であるため、各いきセンとしみセンが、それぞれの役割や強みを活かしながら無理なく関われる運営体制を検討していく必要がある。あわせて、企画調整、出演団体との連絡、当日運営等について、連携事業としてより効果的に進められる方法を整理していきたい。

クビアカツヤカミキリ パトロールボランティア プログラム（第1期・第2期）

きょうと生物多様性センターおよびその所管課となる京都市環境保全創造課と連携し、外来種であるクビアカツヤカミキリの早期発見を目的とした市民参加型ボランティアプログラムを実施した。令和6年度に京都市西京区でクビアカツヤカミキリが確認されたことを踏まえ、桜などへの被害拡大を防ぐため、市民が身近な地域で確認・通報できる仕組みづくりに取り組んだ。

	実施期間	参加者数	交流会	クビアカ被害と確定された通報数	環境保全団体への接続人数
1期	4/20～10/31 ※一部参加者は3/31まで延長	42人	2/22 西京区小塩山整備体験2人参加	3件	2人
2期 ※継続中	令和8年3/7～11/30	25人	令和8年に実施	3件 ※令和8年3月末までの通報	— ※R8年度に報告

- 第1期(4/20～10/31)※一部3/31まで延長
- ・4月20日に、クビアカツヤカミキリ対策の専門家である宗實久義氏を講師に招き、オリエンテーションを2回実施した。参加者は、クビアカツヤカミキリの特徴や被害の見分け方を学び、京都市環境保全創造課職員から通報方法等の説明を受けたうえで、各自の身近な地域でパトロールを行った。
- ・情報共有のためFacebookグループを設けたが、十分な活用には至らず、予定していた交流会も天候等の影響により実施できなかった。そのため、参加者アンケートを行い、3月末まで活動を継続する参加者を募った。
- ・2/22に、西京区にある小塩山の保全活動を行う「西山自然保護ネットワーク」との接点づくり「里山整備体験会」を行い、2名が同団体のボランティアとして活動することとなった。
- ・第1期のクビアカツヤカミキリ被害と確定された通報は3件であった。



写真：2/22の「里山整備体験会」の様子

- 第2期(3/7～継続中)※11月末までを予定
- ・第1期の課題を踏まえ、桜の開花前である3月上旬からパトロールを開始した。クビアカツヤカミキリの幼虫がフラスを排出する5月頃に備え、参加者が身近な桜の場所を確認し、「桜マップ」づくりから取り組んだ。
- ・第1期ではFacebookグループによる情報共有が十分に機能しなかったため、第2期では対面交流の機会を増やす形に見直した。3/7のオリエンテーションでは、基礎知識は事前の動画視聴とし、当日は通報方法の確認とボランティア同士の交流に重点を置いた。
- ・京都市社会福祉協議会よりそい支援部との連携により、長期ひきこもり状態にある方2名の参加につながった。
- ・令和8年度実施の交流企画「お花見ガイドツアー」について、令和7年度中に京都府立植物園と調整を進め、協力を得ることができた。
- ・年度内の通報のうち3件がクビアカツヤカミキリ被害と確認されている。



写真上：オリエンテーションでのボランティア交流タイムの様子
写真下：第2期オリエンテーションは宗實氏より標本を借り、動画視聴での不足部分を補った。



助成金活用セミナー（京都市福祉ボランティアセンターとの連携講座）

京都市福祉ボランティアセンターと連携し、助成金の活用を検討している団体を対象に、助成金の基本を学ぶ講座と、助成団体から直接話を聞く連続講座を開催した。

①8/23(土)「助成金を知ろう！」

従来の助成金セミナーで扱ってきた基本事項を凝縮し、募集要項の読み解き方や、申請書で求められる視点について、解説とワークを交えて実施した。

②8/30(土)「助成財団と会おう！話そう！」

しみセンに寄せられた相談事例をもとにトークセッションを構成した。NPO・市民活動団体が助成団体に直接聞きにくい内容も含め、助成事業の考え方や申請時に大切にしたい視点を共有いただいた。

第2回登壇団体

- ・公益財団法人 さわやか福祉財団
- ・公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
- ・近畿労働金庫 地域共生推進室「NPO アワード」

◆成果◆

参加者：第1回17名、第2回23名

- ・アンケートでは両回とも満足度100%と高い評価を得た。助成金の基本理解に加え、助成団体の考え方を直接聞く機会を設けたことで、申請を検討している団体の不安軽減や申請意欲の後押しにつながった。
- ・登壇団体同士がプログラム運用に関して情報交換するなど交流が行われた。
- ・これまで助成金に申請するも不採択ばかりだった①②に連続参加した団体が、本講座を経て初めて助成金に採択された。



写真：助成団体同士が、それぞれの視点を交わしながら語り合ったトークセッションの様子

連携・交流	目的	多様なセクター(分野別センター含む)などの関係諸機関との連携の触媒となり、よりよい関係づくりと効果的な成果の創出に務めます。
事業計画		◆町内会・自治会むけ講座を通じた関係づくりを行う(自治会・町内会向け講座) ◆市縁堂 2025 において、寄付額拡大のための工夫を行う。

関連する事業一覧

- [交流・連携]市民活動団体をはじめ、自治会等の地域団体、大学、企業及び行政機関等との連携
- [育成]市民活動総合センターフロアを活用した団体と関心層等との出会いの演出(独自提案)
- [相談]寄付金(クラウドファンディングを含む)、助成金等による資金調達に関する相談・支援
- [交流・連携]様々な分野の機関等との連携による交流型イベントの企画・運営(独自提案)
- [情報]活動団体紹介や講座内容等の動画配信 ○[情報]情報発信力強化のための支援(独自提案)

町内会・自治会むけ講座を通じた関係づくり

町内会・自治会との関係づくりに向け、2つの取組を実施した。

- ①(再掲)2/7(土)に「町内会・自治会 地域団体のための会計講座」を開催した。
- ②京都市地域コミュニティサポートセンターと連携し、3/18(水)に「第1回 令和の自治会・町内会 アップデート意見交換会」を試行的に開催した。しみセンへの相談の中で、他地域の事例を知りたい、活発に活動している自治会と意見交換したいという市民ニーズを把握したことをきっかけに実施した。

意見交換会では、自治会・町内会活動に積極的に取り組む担い手が参加し、災害時の安否確認、役員謝金、担い手づくりなど、具体的な事例や関心が共有された。

◆成果◆

時代に合わせた自治会・町内会のあり方を学び合う機会となるとともに、相談内容に応じて適切な支援機関や関係者につなぐ、しみセンのコーディネート機能を活かした取組となった。さらに、京都市地域コミュニティサポートセンターにより開催報告が京都市ホームページに掲載され、参加者から共有された事例も紹介されたことで、意見交換会の内容が他の自治会・町内会関係者にも参考となる情報として発信された。



市縁堂 2025(寄付額拡大のための工夫)

「まぜる・まざる」をテーマに 5 団体がエントリーし、そのうち 4 団体が最後まで参加した。参加団体は、それぞれの活動紹介や寄付の呼びかけを行うとともに、団体ごとに募金箱を設置した。

【完走団体】4団体

- (1) NPO 法人コミュニティ・スペース sacula
- (2) NPO 法人京都教育サポートセンター
- (3) きょうのあそびば
- (4) NPO 法人チャイルドライン京都

【特筆すべき点】

寄付の取り組みとして新たな工夫はできなかったが、チャリティコンサートおよび各団体が設置した募金箱への寄付額が増加した。特に、参加団体自身が寄付の呼びかけを意識し、活動を応援してもらう機会を主体的につくることにつながった。

◆成果◆

【市縁堂「ひろがるサロン」】1/31(土)開催
参加者:12 名

【寄付額】263,604 円
(内訳)

- ・団体募金箱 9 か所合計 69,804 円
 - ・しみセン募金箱 5 か所合計 27,300 円
 - ・しみセン事業での寄付 166,500 円
- このうち、しみセン募金箱としみセン事業で集まった寄付金の合計 193,800 円を、参加 4 団体に 48,450 円ずつ配分した。

施設管理	目的	利用者の視点に立って、利便性を高め、市民活動総合センター機能の効果を高めるサービスを開発し、提供し続けます。
事業計画		◆設備の利用ルールの改善等により、利用者の利便性向上を図る。 ◆設備の維持・修繕をはかり、適切な利用環境を提供する。 ◆しみセンの各種機能を発信し、利用度の向上を図る。

関連する事業一覧(施設管理)

○市民活動総合センター内の施設管理

○事業活動、広報活動を促進するための拠点としての作業環境の向上(独自事業)

設備の利用ルールの改善等

- フロアの利用状況を踏まえ、誰もが安心して利用できる環境づくりに取り組んだ。交流フロアは、飲食や作業、打合せなど多様な利用が可能な共有スペースである。一方で、利用者の過ごし方によっては、他の利用者が利用しづらさを感じる場面もあるため、職員による見回りを増やし、必要に応じて個別に声かけを行った。職員が対応を要したケースは少なくとも 20 件以上あり、共有スペースの快適性を損なう利用が見られた場合の対応基準や手順の整理が課題である。誰もが利用しやすいフロア環境を維持するため、指定管理者としての日常的な対応を継続しつつ、京都市や専門家等の助言も得ながら、対応のあり方を検討していきたい。
- ミーティングルームの予約利用について、申込時に分かりづかった項目や確認事項を見直し、予約申込書の様式を刷新した。利用目的や条件を確認しやすい様式とし、3/1 から運用を開始した。

設備の維持・修繕（公開用パソコン、裁断機、フロアカーペット）

- 開館以来使用を続けてきたフロアの椅子をすべて買い替えた。
- 交流フロアのカーペットについては、日常的に職員が汚れの確認と清掃を行い、利用環境の維持に努めた。通常の清掃では対応が難しい汚れがあったため、特に汚れが目立つ 2 箇所について、業者によるクリーニングを実施した。



しみセンの各種機能を発信し、利用度の向上を図る

- 8 月～9 月にかけて京都市内で活動する団体の移転や解散にともなう事務用品・オフィス家具の資源仲介依頼があり、WEB サイトおよび SNS を通じて発信した。いずれの団体の資源も複数の貰い手が見つかり、仲介機能の紹介につながった。
- (再掲)使い方について質問が多い手動裁断機の使い方説明動画をウェブサイトにアップし、機器使用時も QR コードから参照できるようにした。



オフィス家具や小型家電あり
備品 & 文具の資源仲介

しみセン利用者アンケートの実施 ※別添資料参照

しみセンの利用者や登録団体等の声を今後の運営改善に活かすため、1 月 15 日から 2 月 15 日まで「しみセン利用者アンケート」を実施した。施設利用に加え、相談、講座、交流、情報発信等への意見やニーズを把握する設問とし、WEB フォームを中心に、館内掲示や紙の回答用紙でも回答を受け付けた。回答数は 126 件で、集計結果は別添資料として整理した。今後の事業内容や利用案内等の改善に活用していく。

その他、センター運営管理に関する報告事項

事業計画	設定なし
------	------

関連する事業一覧

- [情報]市民活動に関する情報の収集・提供
- [育成]市民活動の資源を活用した多様なコーディネート
- [相談]幅広い分野の市民活動及び社会貢献活動等に関する各種相談

修学旅行での生き方探求学習コーディネート

神奈川県寒川町立寒川中学校 3 年生 144 人の生き方探究学習として、京都の NPO・市民活動団体の取組を学ぶプログラムを実施した。本事業は、しみセンと京都市ユースサービス協会が連携してコーディネートを行い、8 つの団体等で活動する実践者がスピーカーとして協力した。

後日、生徒からは各自の学びをまとめた報告が届き、社会課題や市民活動の現場に触れた経験が、修学旅行後の探究学習にもつながっていることが確認できた。中学生が京都の NPO・市民活動に出会い、自分たちの地域や暮らしと結びつけて考える機会となった。



営利企業からの活動相談および NPO 法人設立相談(相談事業)

営利・非営利の形態を検討している初期相談や、社会課題解決を志向する事業を営利事業として取り組む相談にも対応した。また、株式会社が別働体として NPO 法人の設立を検討する相談も複数寄せられた。営利企業が NPO 法人を設立・運営する場合には、法人格の選択、営利事業との関係性、NPO 法人としての公益性や説明責任など、相談対応上の留意点が生じる。そのため、職員間で事例や対応時の視点を共有し、相談者の目的や事業内容に応じて適切に情報提供できるよう努めた。

運営委員会

運営委員会は、利用者である市民、市民活動団体、企業のほか、学識経験者、京都市により幅広く構成された組織で、センターの指定管理者が推進するセンター事業への助言、意見陳述を行っている。

令和 7 年度は 14 名に就任いただいている。

- ・第 1 回運営委員会 7/9(水) (出席委員 14 名)
- ・第 2 回運営委員会 12/8(月) (出席委員 13 名)
- ・第 3 回運営委員会 3/25(水) (出席委員 11 名)

報告事項

令和 7 年 9 月、市民活動総合センターを運営する NPO 法人きょうと NPO センターにおいて、休日の職員 A が酒気帯びで来館し、職員 B に対し 1 時間以上にわたり大声で叱責を行うというパワーハラメント事案が発生した。

法人は規定や弁護士の助言に基づき調査を実施し、職員 A を戒告処分とした。また、職員 A に対し、今後の振る舞いについて誓約書の提出を課した。また、発生場所が指定管理施設であったことから、京都市所管課へ報告し、本報告書に記載する。

今後は、継続的な指導に加え、役員倫理規定などの規程整備、再発防止策や研修の再構築、理事会体制の強化に取り組む。

市災害ボランティアセンター運営事業	目的	レジリエントシティとして、災害に強いまちづくりのための活動を促進します。
事業計画	◆市災害ボランティアセンターの基幹運営業務に継続して参画する。 ◆連携先拡充を図る。 ◆講演会をはじめとする各種事業により、市民への防災啓発に取り組む。 ◆有事の際、被災地支援活動に取り組む。	

関連する事業一覧

○京都市災害ボランティアセンター運営参画

市災ボラ主催等の講演会等への運営参画

年間を通して、以下の各種講座・研修会の運営に参画した。

- ・6月7日(土) 災害ボランティア入門講座
- ・10月30日(木) 市・区災害ボランティアセンター新任関係職員を対象とする研修会
- ・10月30日(木) 市・区災害ボランティアセンター関係職員を対象とする合同研修会
- ・11月16日(日) 災害時要配慮者支援研修
- ・11月24日(月・祝) 運営サポーター養成講座

災害ボランティアの普及・啓発を目的とした、イベント・訓練への参画

- ・10月26日(日) 全京都建設協同組合主催「建ちゃんまつり」
- ・11月1日(土) 京都市総合防災訓練

区災害ボランティアセンターの設置候補地での検証訓練への参画

- ・10月10日(金) 中京区災害ボランティアセンター
- ・1月15日(木) 右京区災害ボランティアセンター

連携先(大学・企業等)拡充の共同推進

大学・団体からの依頼により、市民・学生などを対象とした研修を実施し、連携先との協働推進の基盤づくりを進めた。

〈実施回数〉3回(3団体)

〈のべ参加者数〉174名

市災ボラ基幹運営業務の継続参画

- 運営会議や役員会への参画のほか、ホームページ・SNSによる他地域の災害・災害ボランティア情報や研修案内等の情報発信を行った。
- スタッフ用備品の整備やメンテナンスのほか、文書管理、出金管理等の市災ボラ基幹運営業務を行った。



「京都市総合防災訓練」へのブース出展の様子

京都市市民活動総合センター 令和4年度～令和7年度 統計実績

項 目			令和4年(2022年度)	令和5年(2023年度)	令和6年(2024年度)	令和7年(2024年度)				
			指定管理第4期	指定管理第5期						
	開所日数		346日	347日	346日	346日				
	センター 来館者数	年間 (1日平均)	76,247人 (220.4人)	78,324人 (225.7人)	76,630人 (221.5人)	81,466人 (235.5人)				
		累計	2,269,366人	2,347,690人	2,424,320人	2,505,786人				
	① 情報収集・提供									
HPアクセス数			114,219件	113,908件	73,231件	68,315件				
SNS拡散数(facebookリーチ数)			23,874件	27,935件	21,106件	42,977件				
情報共有ポータルサイト(ページビュー数/ビジット数) ※R4年度(内コロナ専用サイト数)			300,110件 (5,527件)	136,674件 (3,402件)	329,811件 -	140,554件 -	322,862件 -	143,146件 -	261,990件 -	127,881件 -
インフォメーションサービス登録			1,352件(実数623件)	実数558件	実数601件	実数630件				
メールマガジン登録件数			2,626件	2,504件	2,135件	2,163件				
情報誌の発行(hotpot)			20,000部(2回)	20,000部(2回)	18,000部(2回)	16,000部(2回)				
チラシコーナー配架件数			2,208件	2,026件	1,865件	1,765件				
② 相 談										
応対総数(電話/メール・窓口)		年間 (1日平均)	22,682件 (65.6件)	21,536件 (62.1件)	20,167件 (58.3件)	21,772件 (62.9件)				
相談総数(電話/メール・窓口・オンライン) ※R3年度からオンライン件数含む		年間	868件	936件	1,017件	943件				
	一般相談(電話/メール・窓口・オンライン) ※(内オンライン数)	年間 (1日平均)	379件(内11件) (1.10件)	351件(内6件) (1.10件)	352件(内20件) (1.02件)	302件(内28件) (0.87件)				
		全件	462件	555件	633件	617件				
	法人認証・認定相談 (電話/メール・窓口・オンライン) ※(内オンライン数)	内:電話/ メール等対応 (内オンライン)	219件	265件	315件	310件				
			(5件)	(7件)	(17件)	(31件)				
		内:窓口	238件	283件	301件	276件				
			時間	350. 0時間	419. 0時間	484.50時間	446.70時間			
専門相談会総数		年間	27回	30回	32回	24回				
	専門家相談会／会計		固定7回+ 随時5回	13団体	固定5回+ 随時6回	13団体	固定7回+ 随時6回	15団体	固定6回+ 随時4回	10団体
	認定専門家相談会／会計		固定9回	7団体	固定6回	9団体	固定7回	11団体	固定4回	4団体
	認定専門家相談会／テーマ別		随時6回	6団体	随時6回	6団体	随時6回	6団体	随時10回	10団体
③ 育 成										
講座等参加者数			52回	838人	43回	950人	39回	1,107人	40回	873人
	入門講座		28回	623人	19回	531人	16回	767人	15回	551人
		NPO初歩講座	7回	438人	6回	318人	7回	557人	6回	382人
		※(内オンライン/ハイブリット開催数・参加者数)	(内オンライン等1回)	(内オンライン等55人)	内オンライン等0回	-	内オンライン等0回	-	内オンライン等0回	-
		NPO法人設立講座 ※(内オンライン/動画配信開催数・参加者数)	21回 (内オンライン等4回)	185人 (内オンライン等33人)	13回 (内オンデマンド3講座)	213人 (内オンデマンド66人)	9回 (内オンデマンド2講座)	210人 (内オンデマンド58人)	9回 (内オンデマンド2講座)	169人 (内オンデマンド71人)
	専門講座		24回	215人	24回	419人	23回	340人	25回	322人
	認定NPO講座		24回	215人	24回	419人	23回	340人	25回	322人
	※(内オンライン/動画配信開催数・参加者数)		(内オンライン等11回)	(内オンライン等96人)	内オンデマンド1講座)	内オンデマンド156人)	内オンデマンド4講座)	内オンデマンド171人)	内オンデマンド5講座)	内オンデマンド151人)
④ 交流・連携										
コーディネート事業										
	コーディネート情報提供(照会)		279件	300件	452件	231件				
	〃 仲介確認中(紹介)		77件	50件	34件	15件				
	〃 成立		22件	18件	12件	13件				
ボランティア・コーディネート需給件数										
	ボランティア募集情報提供数		88件	150件	65件	151件				
	団体情報拡散数(※情報共有ポータルサイト掲載件数含む)		48,717件	43,701件	35,581件	40,398件				
	V・Co成立件数(※祇園祭ごみゼロ大作戦件数含む)		21件	1,469人	6件	1,442人	1件	1,514人	3件	1,667人
市民活動イベント(市縁堂) (参加者・寄付額)			参加人数: 25人	寄付総額: 139,232円	参加人数: 74人	寄付総額: 225,780円	参加人数: 47人	寄付総額: 174,000円	参加人数: 12人	寄付総額: 263,604円
視察等外部との交流・連携			9回	144人	6回	80人	8回	94人	5回	59人
スモールオフィス(12)@5,230/月			期首7団体 期末6団体	期首5団体 期末3団体	期首3/期中5/期末4団体	期首5/期末10団体				
ロッカー	大(24)@830/月		33団体	32団体	32団体	35団体				
	中(24)@520/月		13団体	11団体	9団体	11団体				
	小(18)@200/月		7団体	7団体	11団体	11団体				
メールボックス(96) 無料 ⇒R2/2～(95)			77団体	73団体	71団体	72団体				
印刷室利用件数			2,167件	2,109件	2,153件	1,672件				

令和7年度 京都市市民活動総合センター 予算執行状況

2026.6.3第4期分提出(第1期～3期修正反映済み)

		予算額	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計	執行残
事業費内訳	諸謝金	1,672,860	146,407	208,298	593,077	271,773	1,219,555	453,305
	通信運搬費	1,429,600	261,625	276,109	408,337	391,179	1,337,250	92,350
	印刷製本費	1,355,840	149,328	405,756	355,263	484,352	1,394,699	-38,859
	消耗品費	374,000	72,724	79,831	95,367	257,584	505,506	-131,506
	消耗什器備品費	50,000	0	0	25,727	27,579	53,306	-3,306
	図書費	138,600	20,533	18,213	13,813	55,280	107,839	30,761
	会議費	4,000	3,285	894	636	15,218	20,033	-16,033
	賃借料	526,500	43,318	51,982	155,156	98,483	348,939	177,561
	保険料	10,000	0	2,900	0	7,680	10,580	-580
	旅費・交通費	43,800	5,937	31,676	59,856	18,618	116,087	-72,287
	研修費	70,000	0	0	0	0	0	70,000
	雑費	55,800	7,670	3,390	10,470	17,002	38,532	17,268
事業費計(＊1)		5,731,000	710,827	1,079,049	1,717,702	1,644,748	5,152,326	578,674
管理費内訳	光熱水費	1,449,000	172,948	302,363	436,421	519,183	1,430,915	18,085
	修繕費	50,000	0	22,700	0	0	22,700	27,300
	管理運営料	1,000,000	250,000	250,000	250,000	250,000	1,000,000	0
管理費計(＊2)		2,499,000	422,948	575,063	686,421	769,183	2,453,615	45,385
人件費(＊3)		44,550,000	10,052,606	11,693,088	10,951,380	12,423,975	45,121,049	-571,049
消費税(＊4)		5,278,000	1,118,638	1,334,720	1,335,550	1,483,791	5,272,699	5,301
計(＊1～＊4)(A)		58,058,000	12,305,019	14,681,920	14,691,053	16,321,697	57,999,689	58,311
当期支払額(B)			12,351,460	15,438,500	16,853,496	13,414,544	58,058,000	
差引合計(B-A)			46,441	756,580	2,162,443	-2,907,153	58,311	

しみセン利用者アンケート 2025 年度 集計結果

【実施趣旨】

本アンケートは、これまでの利用者アンケートで中心となっていた「事業や施設への満足度評価」から一歩進め、しみセンの事業やサービスの認知度・利用状況を把握するとともに、利用団体の活動との関わりにおいて、しみセンの支援がどのように受け止められているのかについて、その一端を知ることが目的として実施する。

しみセンのサービスは、来館者だけでなく、ポータルサイト等の利用、電話相談、オンライン講座などにも広がっている。とくに助成金情報については、情報閲覧数などのアクセスデータは把握できているものの、実際に応募や課題整理、団体運営の改善等につながったかどうかについては、これまで十分に確認できていない。

また、市民活動を取り巻く環境は、人口構造の変化や活動分野の広がりにより、これまで以上に多様化・多層化している。こうした状況を踏まえ、講座・交流事業においても、従来型の実施形式に加え、「どのような目的の交流機会が求められているのか」を捉える必要がある。

以上の背景から、本アンケートでは下記 3 点を軸とした構成とし、しみセンの事業改善および市民活動支援の質向上に資するデータの収集を目指す。

A: サービスの認知度・利用度の把握

B: しみセンの支援がどのように受け止められているのかについて、その一端を知る

C: 今後求められる講座・交流機会のニーズを捉える

【実施期間】2026 年 1 月 15 日(木)～ 2 月 15 日(日)

【回答対象者】

①インフォメーションサービス登録団体(630 団体程度)

②メールマガジン購読者 (1000 人程度)※①と重複していない登録者

③相談利用団体・講座参加者(230 人程度) ※2023～2025 年度の利用および参加者

④HP 閲覧者、SNS フォロワー(ページ閲覧者およびフォロワーは 1000 人程度と想定。

ただし①②③との重複者多数)

⑤施設利用者

【配布・周知方法】

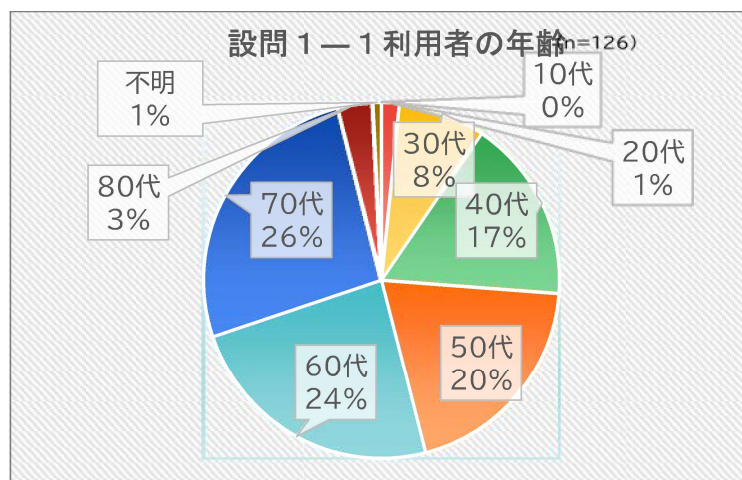
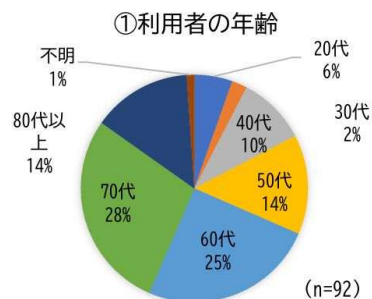
・対象者へメールで案内し、WEB フォームにて回答

・来館者には QR コードを掲示・配布し、希望者にのみアンケート用紙を手渡す。

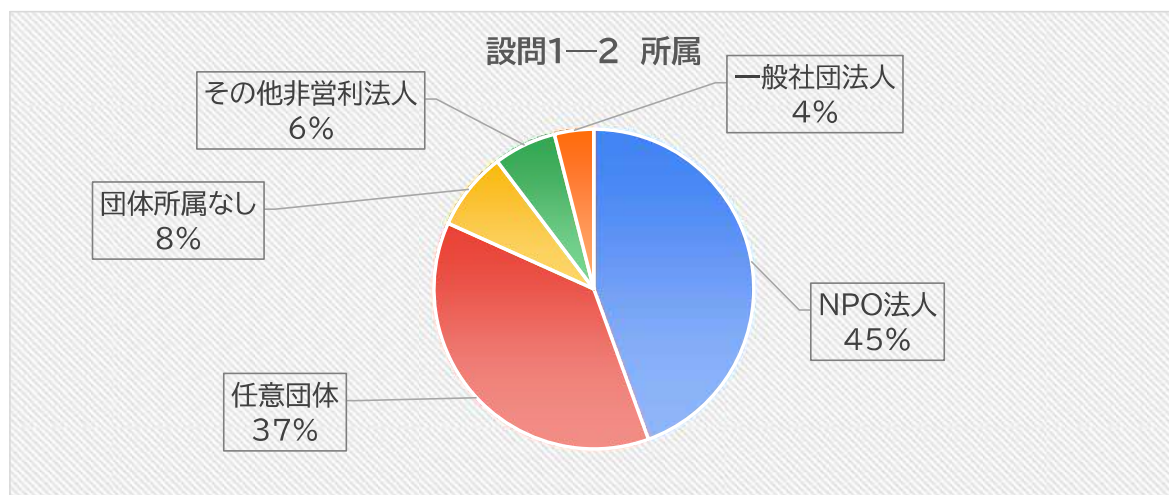
【回答数】126件(用紙:1、フォーム:125)

設問1利用者の年齢及び所属

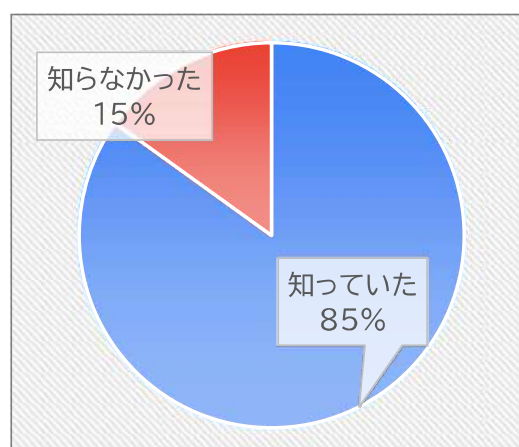
参考:2022 年度アンケート結果



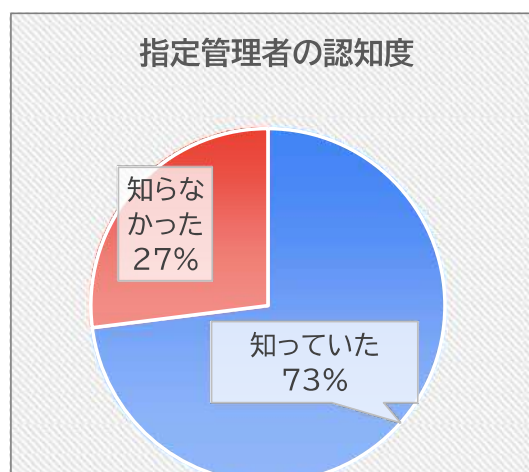
※2022 年度アンケートと比べ、20 代～50 代の現役世代からの回答が 1.4 倍増加した



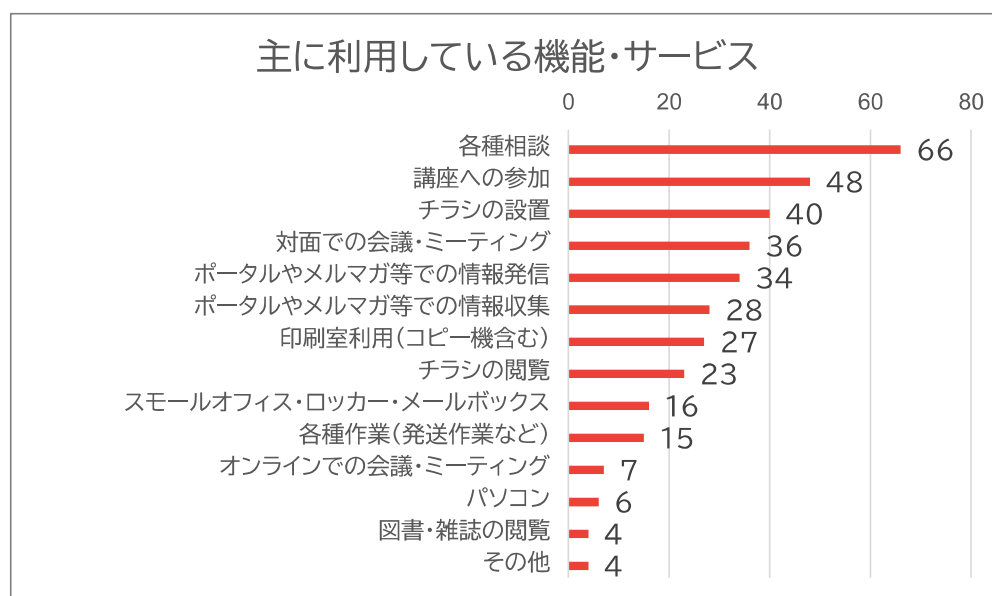
設問2—1 「ひと・まち交流館京都」は複合施設であり、しみセンは 2 階の半分程度(貸会議室等を除いた、交流テーブル等がある場所)のみです。ご存じでしょうか？



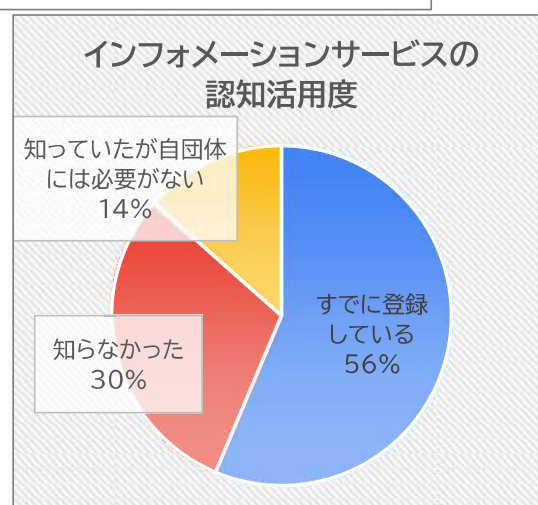
設問2-2 しみセンは京都市が設置し、現在、「NPO 法人きょうと NPO センター」が指定管理事業者として管理運営しています。ご存知でしょうか。



設問2-3 主に利用している機能・サービスを教えてください。(3 つまで)



設問3-1 しみセンでは、団体の活動等の情報発信をサポートするサービス(インフォメーションサービス)があります。ご存じでしたか？



設問3-2すでにインフォメーションサービスに登録している方にお聞きします。

市民の方からの問い合わせや参加申し込みのなかで、「しみセンの団体検索システムやポータルサイトに情報を掲載したこともきっかけの一つになっているかもしれない」と感じたことがあれば、教えてください。

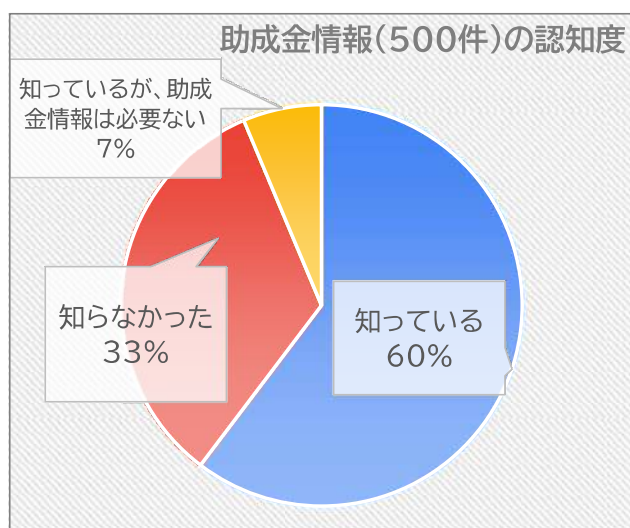
NPO 法人	登録済み 31 団体	回答 10 団体
・講座や講習会、イベントや活動に参加してくれた(同様の回答 3 団体) ・ファンドレイジングの団体より、案内があった ・短時間アルバイトを募集したところ、応募があった ・ボランティアの問い合わせの方で、しみセンの団体検索やポータルサイトから HP に飛び、メールをくださる方が何人もいらっしゃいます(2団体) ・直接的な問い合わせや申し込みはまだないが、載せていただくことでさまざまな人にアプローチできるなど感じています。情報をたくさん載せられるようにします ・ボランティア募集で問い合わせの多くが、しみセンのポータルサイト経由です ・今のところなく、記載内容を変更した方がよいのではないかと考えている		

一般社団法人	登録済み 3 団体	回答 1 団体
・今のところない		

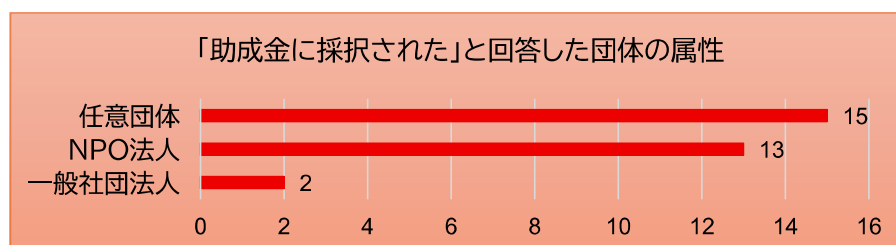
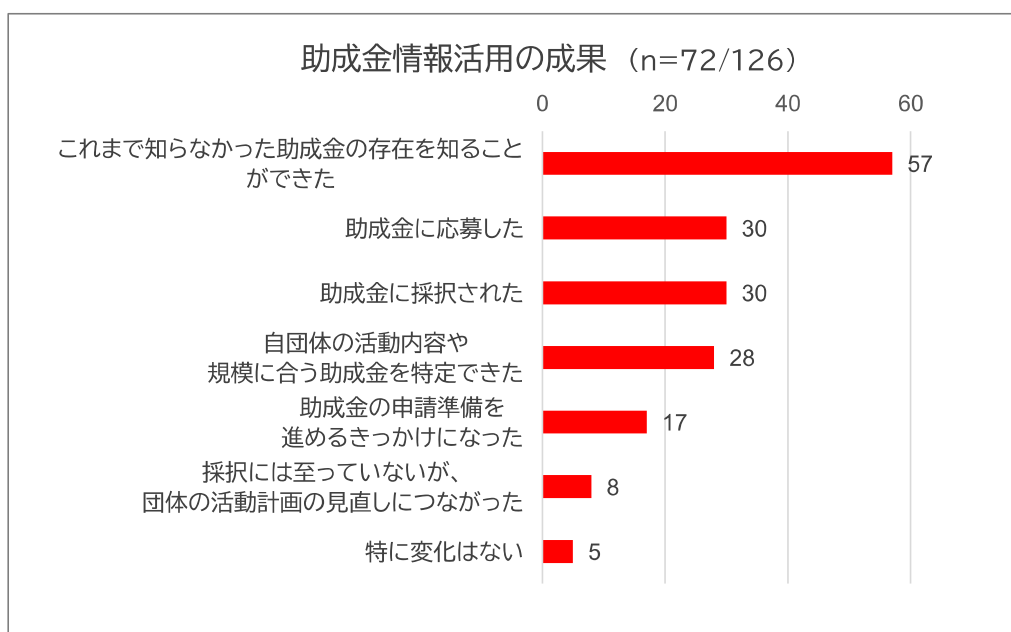
その他非営利法人	登録済み 4 団体	回答 2 団体
・今のところない(2 団体)		

任意団体	登録済み 30 団体	回答 18 団体
・今のところない(11 団体) ・イベントに参加者があった(4団体) ・SNS の拡散のために活用しています ・ネットで見ました、と言ってくれる方のなかにしみセンのページをみた方がおられます ・登録してから 2 回講演会をしましたが、しみセン関係で来られた方はいませんでした。しかし大事だとは思っています		

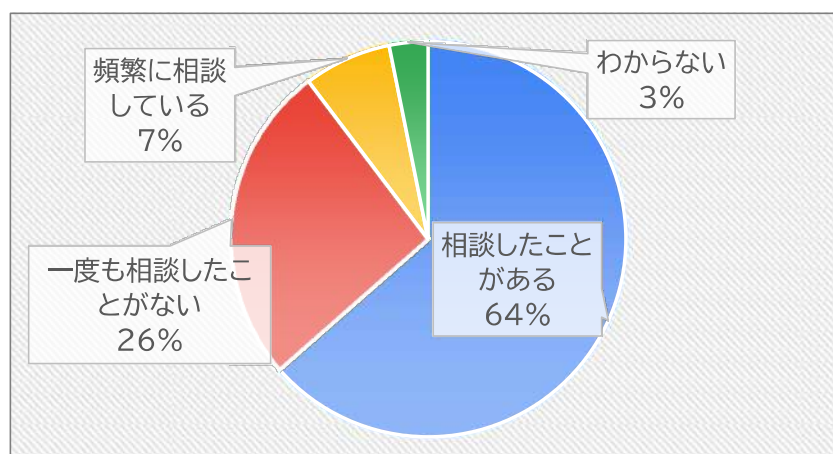
設問4-1 しみセンでは年間 500 件以上の助成金情報を発信しています。ご存じでしたか？



設問4-2 助成金情報を活用している方に質問します。
しみセンの助成金情報を通じて、以下のような成果はありましたか？
(複数選択可)



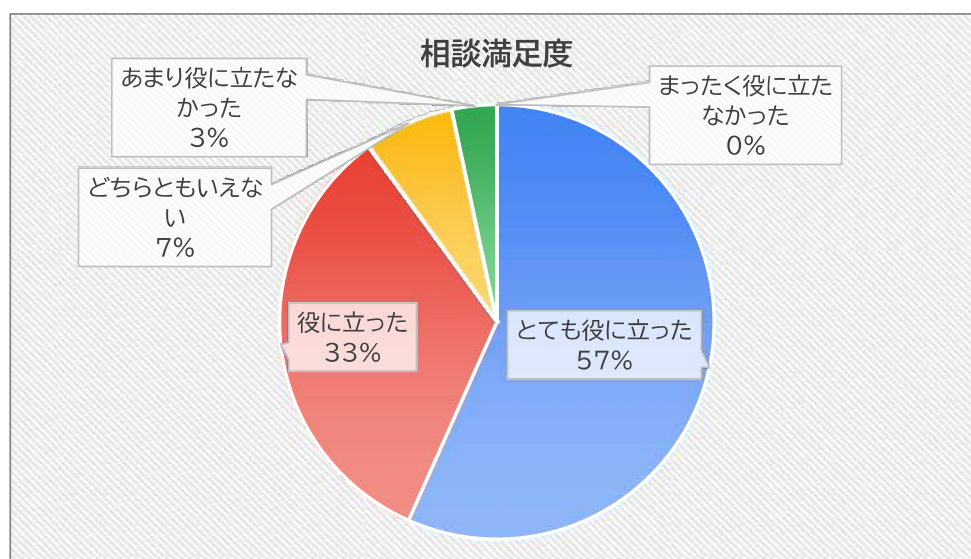
設問5-1 活動に関する様々な疑問や悩みが生じた際に、しみセンに相談したことはありますか？



※設問4-2「助成金に採択された」30団体を調べると、設問5-1では、6団体が「しみセンに頻繁に相談している」、20団体が「相談したことがある」と回答している。

設問5-2 しみセンに一度でも相談をしたことがある方に質問します。

しみセンでの相談を通して、貴団体の課題の整理・改善、または疑問や不安の解消に役立ちましたか？



設問5-3 上記を選んだ理由を教えてください。(n=71)

【とても役に立った／役に立ったと回答した人の理由】

職員の専門性	・高い専門性に基づくアドバイスをいただき、とても助かっている。 ・法や制度からの指摘 ・認定を取る際に、認定を取るための助成金の申請書についてご相談させ
--------	--

職員の専門性	ていただいたり、認定をとるために会計士の方の無料相談を利用させていただいたりして、無事に認定を取得することができた。 ・NPO 法人の書類や手続き関係の業務について教えていただけたから。（同意見4） ・一般の知識ではできないことを丁寧に具体的に説明していただいた。 ・役員の改選について指導していただいた。 ・運営上の疑問点や不明瞭な点を解決していただき、大変お世話になったため。 ・制度等、分からないこともあるので確認できるのは非常にありがたい。 ・NPO の解散の方法について親切に教えていただいた。
専門家相談	・雇用や会計の事で専門家の方のお話を聞く機会を作っていただきました。普通ならお礼をお支払いせねばならないところ無料で相談できました。財政面で厳しいところ大変ありがたかったです。説明を理事に共有し、判断する事ができました。 ・会計処理でつまづいた時は、専門家相談でたびたびお世話になりました。（同意見1）
対応の姿勢	・NPO 法人の設立に関して、1 から 10 まですべてについてご指導いただきました。認証を得るための書類等も詳細にわたってチェックいただき、しみセンさんの指導なくしてスムーズな法人設立はできなかったと思います。大いに感謝しています。 ・活動や事務処理の疑問について、いつも親切に対応してくれている。 ・窓口でも、メールでも疑問や分からないことに丁寧に答えて頂いた。（同意見3） ・初めての定款変更などで、いろいろと親切にご対応いただいた。 ・助成金のこと、印刷のこと、丁寧に教えてくれて助かっています。 ・事務処理を担当していたメンバーが急死し、活動報告書の作成で困っていたところ、懇切丁寧に書き方を説明していただき、無事に提出することが出来ました。 ・声をかけてくださり、相談しやすかった。 ・適切な時間を割いて相談してくださったので。 ・分からないことを気軽に相談できる。
問題整理・課題解決	・親身になって団体の問題点の整理に力を貸してくだった。 ・活動の見直しや整理ができた。次にすべき行動指針になった。 ・すべて手探りの段階で思い切って相談しました。問題を整理していただけて、本当に助かりましたし、何より安心できました。 ・相談することで問題点が明確になり、役員会議での説明や検討を進めて

	いく根拠に出来て心強かった。 ・中長期の方向性や運営のアドバイスで、団体の信用を得ることができた。 ・手厚いサポートを頂き活動が進展した。 ・質問した事で、より具体的に知る事ができ、NPO 法人での活動に活かせることができた為。 ・法人格を持つために必要な知識を詳しく教えて頂いた。団体の課題を示してくださった。
団体の状況に即した助言	・助成金申請の相談をしたところ、その助成金の特徴と当法人の活動趣旨・内容等を加味して申請内容の方向性を整理してくれた。また、時期ごとの助成金公募のあらましなどを教えてくださり、以降の助成金申請の参考になった。 ・専門家相談会を複数回利用し、課題に応じた適切な対応を受けることができた。相談内容に対して本質的に向き合ってもらい、専門的な視点から具体的な解決のヒントが得られたほか、安心して相談できる環境であったことが印象に残った。 ・情報発信の方法を詳しく教えていただいた。 ・団体の運営面で困りごとが多かったので、相談できて大変助かりました。 ・親身になってご助言いただいたり、ご相談にのっていただいたから。
多様な事例	・多くの団体の様々なケースを見ておられるので、アドバイスが多様で A がダメなら B という方法もある、という感じで大変勉強になります。 ・事例をもとにした具体的な対応策を考えてくれる。 ・何かあったときにこちらの持っていない情報があったりするので。 ・同じような思いで活動されているところを教えてもらえたのでありがたかったです。
その他	・相談した内容だけでなく、新しい繋がりに広がったこと。 ・常に相談に乗って下さり大変心強いです。 ・会議での映像の出し方などを教えてもらったと思います。メカに弱いので助かります。

【どちらとも言えないと回答した人の理由】

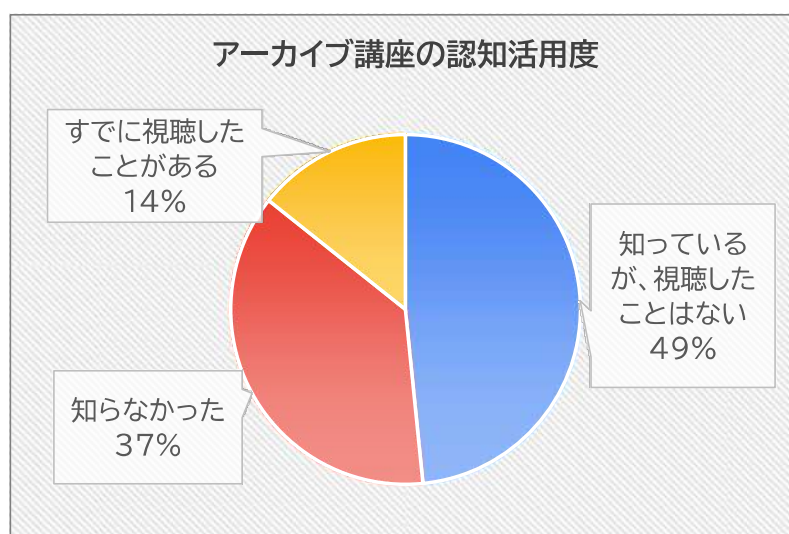
- ・相談してみようというきっかけにはなった
- ・最終的な判断は別の専門機関に確認する必要があった
- ・職員との相談では丁寧に対応いただき、一定のヒントは得られた。一方で、専門家相談においては、回答にばらつきがあり、どのように対応すべきか、問題の解決に至らなかった

【あまり役に立たなかったと回答した人の理由】

- ・丁寧に対応いただいたものの、最終的な問題解決には至らなかった
- ・活動の進め方についての助言はあったが、状況の変化もあり、実現には結びつかなかった
- ・相談内容に対して、一般的な情報提供が中心となり、個別の状況に即した具体的な支援としては十分に感じられなかった
- ・税理士を紹介してほしいと思っていたが、情報提供や助言の内容が、WEB で得られる情報と大きな差がなく、実務面での判断にはつながりにくかった

設問6—1

しみセンでは市民活動の始め方や NPO 法人の実務、市民公益活動に必要な資金調達、広報スキルなど 27 タイトルの講座を実施しています。内、オンラインで好きなタイミングで視聴ができる7種類のアーカイブ講座があることをご存じですか？



設問6—2 あれば受講したい講座のテーマを教えてください。(n=28)

NPO 法人	回答9団体
・ 資金調達・助成金【3 件】 例：資金調達や助成金に関する知識・情報 ・ 広報・情報発信【2 件】 例：広報スキルの向上 ・ 組織運営(役員・ガバナンス)【2 件】 例：役員の世代交代・継承／運営に関する課題 ・ 会計・経理・コンプライアンス【1 件】 例：経理実務、コンプライアンスに関する知識 ・ 団体の基盤づくり(理念・ミッション)【1 件】 例：理念・ミッション・ビジョンの策定 ・ デジタル・新技術活用【1 件】 例：生成 AI 活用における著作権等の留意点	

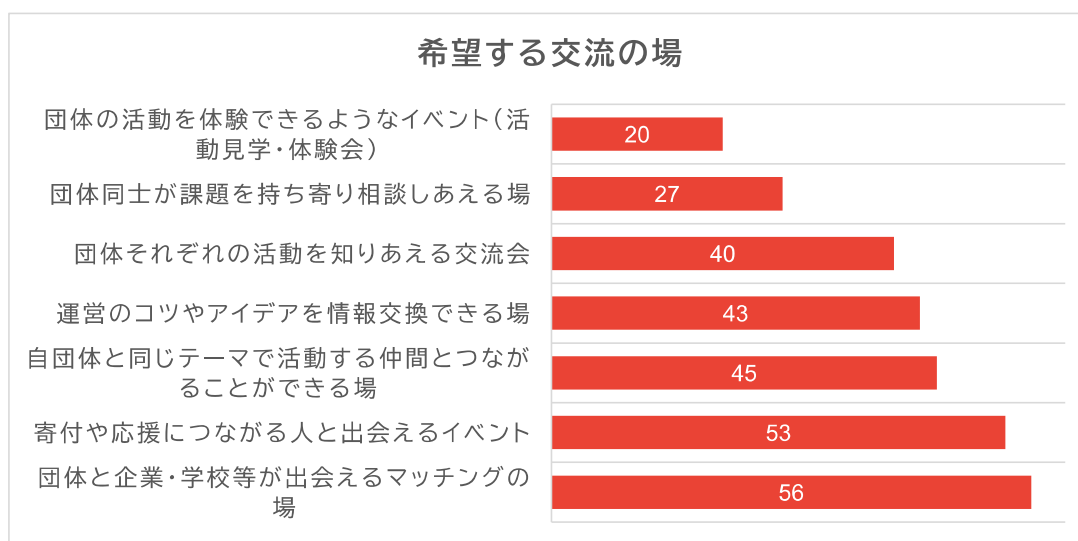
その他非営利法人	回答4団体
・ 安い物件情報 ・ 広報誌の作り方 ・ AI 活用の中級ぐらいの講座(初歩的な使い方ではなく、業務への活用)	

任意団体	回答15団体
・ 資金調達・助成金【4 件】 例:助成金に関する基礎知識・申請方法 ・ 広報・情報発信【3 件】 例:Canva 等を使ったデザイン／SNS の活用方法／若年層への発信 ・ ボランティア(募集・定着)【2 件】 例:ボランティアの集め方／大学生ボランティアの定着 ・ 組織運営・人材育成【2 件】 例:コアメンバー育成／運営の進め方(実践的タスクリスト等) ・ 会計・実務【2 件】 例:会計講座／NPO 法人の実務(基礎理解) ・ 法人格の違い、運営の基礎 ・ 経営やマーケティングの基礎 ・ 地域課題解決や社会活動に関する講座 ・ 福祉分野(介護・障害)に関する支援の考え方	

※設問6ー2に「今のところ特になし」と回答したのは 6 団体。）

*内訳:任意団体4／NPO 法人1／その他非営利法人1

設問7ー1 今後、どのような目的の交流会があるとよいと思いますか？(複数選択可)



設問8 ご意見・ご感想・メッセージ等があれば自由にご記入ください。

日頃の支援や対応への感謝、今後も利用したいという声が多く寄せられた。
(同様意見 18 件)

- ・いつもありがとうございます／お世話になっています。
- ・引き続きよろしくお願いします。
- ・安心して利用できている。

情報提供や相談対応、場の提供などが活動の支えになっているとの声が見られた。
(同様意見 5 件)

- ・私達の知らない情報を教えて頂けると、安心しています。
- ・メールマガジンでのお知らせも活用させていただいています。
- ・ミーティングルーム等の存在が活動継続に不可欠な存在でありがたい。
- ・最近なかなかしみセンを活用できていませんが、皆さんがいつもあたたかく見守ってくださっていること、関心が合う方がいた時に適切にマッチングしてくださっていることを感じています。

交流・事業のあり方に関する意見

(交流機会の設計や参加者の偏りに対する問題提起が 1 件あった。)

市民活動を本業にできる方は良いと思うのですが、本業プラスで市民活動に携わっていたり、小さな任意団体だと多忙でなかなか参加できないのが現状ではないでしょうか。実際、参加されている方たちは限られていて、その中の人たちだけがクローズアップされ、様々なイベントや交流会がぐるぐる動いている、回っているようなそんな印象を持っています。イベントや交流会それ自体は開催できれば良いのですが、それで本当にいいのかな、と思います。

今後の事業等に関する具体的な提案

- ・不登校などのニーズのある子ども・若者、保護者とのつながりができる機会があれば大変嬉しいです。
- ・研修はなかなか参加できる機会がないので、アーカイブはとてもありがたいです。種類を増やしていただけると嬉しいです。
- ・実際の組織設計や実務においてのよくある改善点を網羅したチェックリストや、実行プロセスを具体化したタスクリストがあればとても嬉しいです。

施設利用に関する意見

- ・特定の方が、特定の場所を個人スペースのように使用されていることが気になります。
- ・施設の予約が、時間が自由に使える人がいる団体でないと難しい。構成員が仕事を持っている人ばかりだと、予約できないというのは、公共施設の欠点だと思います。

※その他、団体の現状をお知らせいただくような内容も複数ありました。